

(別紙)

## 第三者評価結果

### 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

#### Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>薬師寺保育園は理念を「子ども一人ひとりを大切にし、子どもを真ん中において職員・保護者・地域が一体となって保育ができる環境をめざす。」と掲げ、さらに2つの基本方針、3つの基本目標を設定、明文化しています。これらは各クラスや事務室に掲げられ、職員や保護者は日常的に目にするできるようになっています。また、園を紹介するリーフレットや「入園のしおり」、「保育課程」にも記しています。</p> <p>職員は年度当初の園内会議において、読み合わせを行い、深く理解する取り組みを行い、保護者へは、入園オリエンテーション、保護者会総会の場で説明し、周知を図っています。</p> <p>今回実施した職員アンケート結果では、「法人又は事業所の理念や方針について会議や研修で取り上げるなど職員の理解を深める取組を行っていますか。」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、周知の取り組みが望まれます。</p>		

#### Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>下野市の「第二次総合計画」、「子育て応援しもつけっ子プラン」、また、「公立保育園民営化実施計画」の計画策定において、本市の子育てや保育園を取り巻く環境、経営状況が分析されており、それらは本園に配付されています。また、園長は研修会や会議に出席し、保育を取り巻く現状、動向について講義を受け、その結果を園内に復命しています。また、保育の専門誌を年間購読しており、職員の理解を深める取り組みを行っています。しかし、職員アンケートでは「施設長は職員に対して経営状況や経営上の課題について説明していますか。」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、経営環境の説明について、今後のさらなる取り組みが望まれます。</p>		
3	Ⅰ-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員配置、施設整備など、本園整備の課題については、事務事業評価シートにより整理され、必要性、緊急性、効率性が評価され、保育士の採用、備品購入・施設修繕整備計画が立</p>		

てられています。そしてこれらの計画に従って予算化が図られ、具体的な事業が計画的に行われています。事務事業評価シートは、園長よりこども福祉課に提出され、こども福祉課による1次評価、委員会、市長による2次評価が行われ、そして市全体で総合評価が位置づけられ、具体的な事業の取り組みに結び付けられています。

### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	○ a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>下野市の上位計画である「下野市第二次総合計画」において、本市の子育て環境づくりの中・長期ビジョンが掲げられ、それをもとに子育て環境整備の「下野市子育て応援しもつけっ子プラン」、さらに「下野市公立保育園民営化実施計画」が策定されています。この民営化実施計画において本園は平成31年4月から、民間法人による経営になることが決まっています。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	○ a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>市の「第二次総合計画」をもとに、5年間の事業計画として「子育て応援しもつけっ子プラン」があります。この計画において各年度の事業目標が定められ、事業の進捗を勘案しながら年度の予算要求を踏まえ、年度の実施計画が策定されています。本園の年度事業もこの計画のもとに予算化が図られ、実施計画に盛り込まれています。</p> <p>保育内容についての年度計画については、主な計画として保育課程、年間指導計画、年間行事計画があり、年間の保育活動が計画的に行われています。その他、園の環境整備計画、避難訓練、交通安全指導、不審者対応訓練、職員研修計画など、各部門についても年間計画が作成され、それによって計画的に活動が行われています。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	○ a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画とは「第二次総合計画」や「子育て応援しもつけっ子プラン」、また各年度の「実施計画」が相当し、本庁企画部門やこども福祉課が担当しています。策定にあたっては子育て関係事業者、保護者代表が策定会議に参加するなど、子育て当事者や支援の現場の意見を踏まえ、定期的に見直し、計画策定が行われています。</p> <p>本園の保育課程、年間指導計画、年間行事計画など保育内容や園の活動については、担当者が決められグループで検討したり、主任が中心となり検討を行っており、検討結果は園内会議で協議され、決定されます。行事等については実施後、保護者へのアンケートを実施し、グループ会議や園内会議で結果の反省、評価を行い、問題点や改善点を明確にし、次年度の計画に反映しています。</p>		

7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>市の「第二次総合計画」や「子育て応援しもつけっ子プラン」などの計画について、「入園のしおり」や「保護者会総会資料」などに記載がないことから、説明は行われていないことがうかがわれます。保育内容に関する年間行事計画は、年度初めに「入園のしおり」や「保護者会総会資料」に示し、周知され、また、各行事の実施の際には内容を詳細に案内する通知を行っています。また、園の施設修繕、改修の工事のお知らせ、園の行事について、毎月発行する「園だより」や「クラスだより」でお知らせやお願いを伝えています。</p>		

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・(b)・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育の質の向上のために、全職員が「保育者のための自己評価チェックリスト」を年2回行っています。チェックリストをすることで、自らの保育サービスについて何らかの気づきを得て、今後の改善につなげる取り組みをしています。また、保育士階層別の研修体系に沿って、園内外の研修計画が作成され、それに従って実施しています。また、研修結果については復命書を提出し、園内会議で報告するようになっており、研修成果の共有化が図られています。</p> <p>今回行った職員アンケート結果では、「研修を修了した職員は、報告レポートを提出したり、皆の前で発表する取組はありますか。」の問いに「できている」との回答率は低く、さらなる取り組みが望まれます。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・(b)・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>全職員が自己評価チェックリストを年2回実施し、その結果から園全体の平均値を集計していますが、それらを検討材料に課題の検討、改善策の検討までは行われていないものとうかがわれます。</p> <p>職員のスキルアップのための研修活動については、年度初めに個人別研修計画を作成し、それに従って実施しています。研修内容については、各職員の階層やこれまでの研修受講一覧を参考に検討しています。また、研修後には復命書を提出し、会議で報告することで、研修成果の共有化が図られています。</p> <p>職員アンケートでは「組織の課題やサービス内容についての調査や自己評価を実施し、職員も参加して結果の分析や課題の検討を行っていますか。」また「組織の課題やサービス内容についての自己評価等の結果や課題を職員間で共有化していますか。」の問いに「できている」との回答率はともに低い結果となっており、一層の取り組みが望まれます。</p>		



## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本市の就業規定や事務分掌に園長の施設長としての責務、権限が規定されています。職務分掌については、年度当初の園内会議において説明、確認し、共通理解を図っています。また、火災・自然災害等の緊急時の対応（指示系統等）における園長の役割、責任はマニュアルに明示されており、園内研修で定期的に取り上げ、確認を行っています。また、消防計画は消防署に届けており、内容が変更になった場合は変更届を提出しています。</p> <p>職員アンケートにおいて「施設長は職員に対して施設長の役割と責任について伝えていますが。」との問いに「できている」との回答率が低くなっており、十分に伝わっていないことがうかがわれ、さらなる今後の取り組みが望まれます。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事務室内に児童福祉法を始めとする子育て支援に関連する法令集や保育園設置条例、職員服従規程などを綴った文書を置き、いつでも確認できるようにしています。園長は施設長としての研修や各種会議に出席し、その活動を通して子育て支援に関連する遵守すべき法令等の情報収集、把握に努めています。研修後は、復命書を提出するとともに、会議で研修結果を報告することで、研修成果の職員への共有化を図っています。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長は日誌や園内会議での各行事の反省結果、自己申告や人事評価結果などから園の保育の状況を把握しています。職員の資質の向上については、各職員の年間研修計画を立て、園外の研修活動への参加、園内での研修活動を積極的に推進しています。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長は日頃の保育活動を通して得た職員の意見を集約し、それをもとに改善策を取りまとめ実行に移しています。今年度は「重大事故が発生しやすい場面」について、職員より意見を募り、それをもとに保育方法の対策や施設・設備の修繕対策を取りまとめています。「プール遊び」について、保育にあたる注意事項や確認事項を見直し、書類を配付したり、風水害対策計画を立て職員に周知を図るなど、園長としての指導力を発揮していることがうかがわれます。</p>		

## II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本市にとって保育士の確保は、市全体の重要な課題となっています。保育園人事については本庁総務人事課と子ども福祉課が行っており、市全体での入園者数と保育士配置の分析が行われ、臨時保育士を含め保育士採用の方針、計画が検討されています。そしてこの計画のもとに新年度職員採用試験の案内、ハローワークへの求人、市広報を使った保育士の募集等を行っています。保育士の確保は依然、厳しい状況にあることから、就業条件、賃金の見直し等を行って、人材確保に努めています。</p>		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>正規職員については、本庁総務人事課のもとで総合的な人事管理が行われています。職員の適正配置・処遇、また育成の観点から人事評価が実施され、同時に業務に対する自己評価（チェックリスト）、就業に対する希望について自己申告も行われ、人事評価結果は本人に開示されています。</p> <p>臨時職員については人事評価を行っていませんが、雇用契約時に個人面談が行われています。就業継続の意向、保育士としての実績、この半年の反省、今後の目標、自分の強み・弱みといった自己評価の申告が行われています。</p> <p>今回実施した職員アンケート結果をみると、「人事考課の目的を職員に説明し、人事考課の結果について職員へのフィードバックがされていますか。」の問いに「できている」との回答は低く、正規職員への説明を徹底するとともに、臨時職員の実績、能力を最大限に生かすためにも、臨時職員に対する何らかの人事評価制度の整備が望まれます。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>市では「職員のための子育て応援ハンドブック」を作成・配付し、また「女性職員活躍支援行動計画」を策定、女性職員のキャリア形成とワーク・ライフ・バランスを推進しています。休暇等の取得については職員の希望に沿って取得できるようにしており、毎月、各職員の勤務意向を確認し、それをもとに勤務予定表が作成され、各職員の勤務状況について正規職員はパソコン上の出退勤システムで、臨時職員は臨時職員出勤簿で詳細に管理されています。</p> <p>職員はストレスチェックを実施し、結果によってカウンセリングを受けることになっており、園長はメンタルヘルスの研修を受け、職場管理を行っています。また、正規職員は課長面談、臨時職員は園長面談を実施し、就業に対する意向を吸い上げ、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。</p>		

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>正規職員については本市で統一して行っている人事評価制度により、育成に向けた取り組みを行っています。各職員は個人目標を設定し、手段・方法、期間など具体的な実施スケジュールを立てて行われています。個人目標の進捗管理については、目標設定時の期首、進捗状況確認の中間、期末に課長と面談し、評価を行う体制が整えられています。</p> <p>臨時職員については、年2回の個人面談で目標確認を行っていますが、正規職員のような人事評価制度に基づく取り組みにはなっていないことから、今後の検討が望まれます。</p>		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>臨時職員を含め、全ての職員に対し研修の機会を作り、参加を促しています。職員には市内5園研修、年齢別研修、テーマ別研修など様々な研修が用意されており、個々の職員の専門性を階層別職員体系表に沿って把握し、職員研修計画が立てられ、外部研修、内部研修が計画的に行われています。また、各職員別に研修受講一覧が作成されており、過去の研修活動の実績を考慮しながら、研修活動が行われています。</p>		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>下野市内特定教育・保育施設に勤務する保育士や教諭を対象とした研修があり、テーマ別に実施しています。その他、市立保育園では年齢別にテーマに沿った研修を行い、個々の保育士の階層に沿った研修活動を行い、質の向上に努めています。園内研修では研修報告する場を設け、全職員の共通理解に努めています。職員アンケート結果で「研修を修了した職員は、報告レポートを提出したり、皆の前で発表する取組はありますか。」の問いに「できている」との回答率が、低くなっており、さらなる取組みが期待されます。</p>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>実習生の受け入れについては、市こども福祉課が窓口になり、マニュアルに従って計画的に実施しています。主任保育士が学校側と打ち合わせを行い、計画を立て、プログラムに沿って指導にあたっています。実習生からは毎日実習日誌が提出され、それを担当職員、主任、園長が確認しています。また、実習最終日には園長、主任、担当職員が参加する反省会を行っています。</p>		

### II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われてい	a・b・c

	る。	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園は下野市立保育園であるため、保育園に関する情報公開は下野市で行っており、市のホームページで本園の概要が紹介されています。また、今回の第三者評価の実施により、とちぎ福祉サービス第三者評価推進機構のホームページに本園の概要、評価結果が掲載されることとなります。</p> <p>本園の概要を紹介するリーフレットがあり、訪問者や入園を希望する保護者等に配付して、本園について紹介しています。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園における経理事務、業者との取引等は、市の規定、様式に従って実施しています。パソコンの財務会計システムにより歳入・歳出は管理され、システムは本庁こども福祉課等と直結しています。給食費、延長保育料、一時保育料なども市の規定、様式で行っており、定期的に公金等取扱チェックシートにより管理の状況をチェックしています。</p> <p>市による行政監査、県による指導監査は定期的に行われ、今回実施の第三者評価についても評価結果の公表を予定しており、公正かつ透明性の高い経営・運営の取り組みが行われています。</p>		

#### Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園は理念を「子ども一人ひとりを大切にし、子どもを真ん中において職員・保護者・地域が一体となって保育ができる環境をめざす。」と掲げ、地域との交流、連携を保育の環境づくりの柱にしています。</p> <p>本園と地域の方々との交流活動は様々な場面で見られ、その1つに「ふれあい福祉運動会」があります。園児たちは運動会に招待され、高齢者や障害者と一緒に「綱引き」や「玉入れ」、「かけっこ」をしたり、「ダンス」をしたり、「手作りのキーホルダー」をプレゼントしたりしています。また、本園の保育を特徴づける事業の1つに「アグリ体験事業」があります。近所の農家の方に協力していただき、田植え・稲刈りを体験したり、野菜づくりを体験しています。収穫された野菜は給食の食材として利用し、野菜が嫌いだった子どもが食べられるようになるなど、食育の面においても良い効果をもたらしています。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ボランティアの受け入れは市こども福祉課が窓口になり、マニュアルに従って実施しています。マニュアルのなかにボランティア受け入れの意義および目的が明記され、申込みの手</p>		



続きから、ボランティアの受け入れ体制、事前説明、実施状況の記録などが定められています。

また、中学生の職場体験や高校生のインターンシップの受け入れも行っています。実施にあたっては、事前にオリエンテーションを行い、希望に添えるようプログラムを作成し、計画的に実施しています。

近年、申込みがないことから実施していませんが、保育士を目指す人材を開発するためにも、また、園の運営の人材を確保する意味においても、積極的な受け入れの取り組みが望まれます。

Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c
----	---	-------

<コメント>

全職員が携帯する「しもつけ保育ポケット」には、保育の場面、緊急時の場面毎に、関連する施設や部署の連絡先が書き込まれていて、いつでも確認することができます。また、緊急時の連絡先リストが事務室に貼り出され、迅速に対応できるようにしています。

市こども福祉課が事務局になって実施する市内保育園、認定こども園の園長が出席する「特定教育施設長会議」があり、各園の状況、感染症の状況などの情報交換を行っています。また、園児の引き継ぎなどで連携が求められる幼稚園、保育園、小学校との「幼小連携連絡協議会」の会議に出席し、情報交換、授業参観、保育参観、小学校見学などの交流活動を行っています。さらに、発達に不安のある子については「こども発達支援センター こぼと園」や市こども福祉課と連携を取りあって、子どもの通所、保護者への不安解消の支援を行っています。

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	Ⅱ-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a・b・c
----	--------------------------------	-------

<コメント>

本園は市民の様々な福祉ニーズに対応し、一時保育を実施しており、急な用事や就労の関係で一時的に保育が必要になった方へ一時的な保育サービスを提供しています。また、園庭などの施設開放は行っていませんが、地域の行事などで駐車場の貸し出しの申請があった場合は、園庭の開放を行っています。

地域の方々との交流事業においては、「ふれあい福祉運動会」で競技に参加したり、歌や遊戯を披露したり、「公民館まつり」では園児たちの作品を展示して、地域の祭り行事を盛り上げるのに一役買っています。

27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
----	--	-------

<コメント>

「ふれあい福祉運動会」や「公民館まつり」などの地域行事への参加、実習生、中学生の職場体験、高校生のインターン、ボランティアの受け入れ、また市内保育園、認定こども園の園長が参加する「特定教育施設長会議」や幼稚園、保育園、小学校が参加する「幼小連携連絡協議会」での情報交換などを通し、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めています。そしてそこで得られた情報を活かし、保護者や家族が参加する「七夕参観、祖父母参観」、地

域の方の協力で行う「アグリ体験事業」など、園が目指す「職員・保護者・地域が一体となって」行う保育に結びつけています。

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「子ども一人ひとりを大切にし、子どもを真ん中において職員・保護者・地域が一体となって保育ができる環境をめざす。」とする「基本理念」や「保育の基本方針」を各クラスに掲示し、日々確認できるようにしています。また園内会議において「保育綱領」や「保育ポケット」などの読み合わせが行われていることを記録により確認しました。しかし、職員アンケートでは「利用者を尊重したサービス提供の重要性や虐待防止等に関して、勉強会・研修等を行っていますか」の問いに「できている」との回答率は低く、取組みの充実が望まれます。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「保護者支援マニュアル」の中に、「プライバシー保護及び秘密保持」や「プライバシーの尊重と保護のポイント」、「虐待が疑われる子の早期発見」など子どものプライバシー保護等に関する規定や対応などが定められています。保護者に対しては、氏名や写真の掲載について入学時に「個人情報の確認について」の書面を提出していただき、職員はこれを遵守しています。また、保護者が撮影した写真等の SNS 等利用も注意を呼び掛けています。保護者アンケートでは「職員はプライバシーを守っていますか」の問いに「はい」の回答率は 83% と高い値を示しています。</p>		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園に関する情報は、主として市の担当課が市のホームページや広報により提供しています。見学希望に対しては随時受け付けており、希望の日程に合わせて見学会を実施しています。見学会は主任が担当し、園のリーフレットに基づき概要を説明した後、施設内を案内しています。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園が決定した保護者には「新入児オリエンテーション」を開催しています。オリエンテーション資料等をもとに、保育理念等や年間行事、一日の流れ、持ち物などの説明が行われています。また、延長保育や土曜保育の説明も行い、必要に応じて資料を提供しています。保護者に伝え漏れが無いよう「新入園時オリエンテーション必要書類チェック表」が作成さ</p>		

れています。		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>市内の公立保育園に転園する場合には、児童票による引き継ぎを行い、継続性に配慮した保育、支援を行っています。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「春の親子遠足」(5月)、「夕涼み会」(7月)、「運動会」(10月)、「発表会」(12月)の4つの行事について、2回にまとめて保護者アンケートを行っています。また、「一日保育士体験」でもアンケートを行いました。集計結果及び改善が必要な理由をまとめ、保護者に文書で回答しています。保護者意見に対する園の考えを合わせて伝えられれば、なお望ましいように感じます。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園のしおりに「苦情解決手順」として第三者委員等について記載されており、保護者総会などで保護者に伝えられています。また、「苦情解決制度」のチラシを園内に掲示し、周知に努めています。保護者へのアンケートにおいて、「サービスに対する不満等を職員以外の人(第三者委員)に相談できることを知っていますか。」について「はい」の回答率は86%と高い値を示しています。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「声のポスト」を3歳児「もも」クラスの下駄箱の上に設置しています。「第三者委員等」と一緒に「入園のしおり」等に記載されており、保護者にも伝えられています。保護者アンケートにおいて「保護者が意見を言いやすいように、職員は日常的に保護者に言葉かけを行うなどの取組をしていますか」の問いに「はい」は78%の回答率を示しています。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>昨年度の保護者意見を踏まえ、発表会では観覧者の通路を設定したり、ビデオ撮影に関する決まり事(三脚は後ろ)を定めました。また、運動会では撮影の優先席(子どもが出る時に一番良い場所で撮影できる)を設けました。保護者アンケートでは「要望や意見などに、きちんと対応してくれますか。」の問いに「はい」が89%と高い回答率を示しており、このような対応が評価されているものと思われます。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		

37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「保育安全マニュアル」に災害やケガ、事故、病気などが発生した際の対応が記載されており、同マニュアルは全職員に配布しており、周知に努めています。ケガやヒヤリハットについては書類に記入の上、回覧し情報の共有化に努めています。職員アンケートでは「ヒヤリハット等の情報を収集し、組織として予防策を講じていますか」の問いに「できている」の回答率は低くなっており、園としての取組の充実が求められます。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育安全マニュアルに、感染症と登園に関する医師の診断等についての記載があり、その一部は入園のしおりに記載され、保護者にも伝えられています。さらに「嘔吐物・下痢便で汚れた衣類の取り扱い方」や「嘔吐に対する消毒方法」も文書化されています。感染症が発生した場合は「配信メール」で保護者に通知されています。保護者アンケートで「園から保護者に知らせてほしい情報」として「感染症情報を詳しく知らせてほしい」といった意見もあり、情報伝達の工夫が望まれます。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>毎年「防災計画」を見直し、災害時の体制等について定め、職員に周知されています。「避難訓練年間計画」及び「不審者対応訓練年間計画」も毎年作成し、これに基づき避難訓練・不審者対応訓練を、それぞれ毎月実施しています。職員アンケートでは「災害時の出勤基準や安否確認方法が定められ、職員に周知されていますか」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、取組みのさらなる充実が求められます。</p>		

### Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>基本的な取組を文書化したものとして「保護者支援マニュアル」や「保育安全マニュアル」、「食物アレルギー対応マニュアル」などがまとめられています。職員アンケートにおいて「標準的な実施方法に差異が生じないように、職員研修等を実施していますか」の問いに「できている」との回答率は低くなっています。年齢ごとの保育マニュアルなどを関係職員の参加のもと見直し、研修するなど、取組の一層の充実が求められます。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p>		

<p>標準的な保育の実施方法の検証・見直しは、保護者の意見も含めて検討することとなっています。しかし、職員アンケートでは「標準的な実施方法の見直しには、職員や利用者の意見が反映され見直されていますか」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、取組みの一層の充実・改善が求められます。</p>		
<p>Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。</p>		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>指導計画は、各学年の担当職員が作成し、主任及び園長に提出し、協議等を踏まえて策定されています。職員アンケートにおいて「実施計画等には、さまざまな職員が参加して協議していますか」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、取組みの充実・改善が求められます。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年間指導計画は、四半期ごとに担当保育士が「自己評価」を記載し、年度末には1年間を振り返り、計画を見直し、翌年の指導計画を作成します。月案は毎月、週案は毎週、前回の反省を踏まえて作成することとなっており、「保育士の自己評価」及び「子どもの評価」として振り返りが行われています。職員アンケートでは「サービス内容が変更された場合、関係する職員に周知されていますか」の問いに「できている」との回答率は若干低く、取組みの充実が求められます。</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p>		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>朝の連絡は、園長と主任が話し合った内容を、主任が「0・1歳」と「2・3・4・5歳」のクラスに行き職員に伝えています。ミーティングノートは4歳児（りんご組）クラスに常に置いてあり、遅く出勤する職員はミーティングノートに目を通してから保育に入ることになっています。職員アンケートでは「サービス提供の記録の内容が、関係する職員に周知されていますか」の問いに「できている」との回答率は低く、取組みの充実・改善が求められます。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもに関する記録の管理は、市の「ファイル基準表」に基づき管理が行われ、児童票等の文書は事務室内の鍵のかかるキャビネットにて保管されています。職員アンケートでは「記録の管理の方法について、個人情報保護や情報公開の観点から、職員研修が行われていますか」の問いに「できている」との回答率は低くなっており、取組みの充実が求められます。</p>		

## A-1 保育内容

### A-1-(1) 保育課程の編成

A①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「子ども一人ひとりを大切にし、子どもを真ん中において、職員・保護者・地域が一体となって保育ができる環境を目指す」とする「保育理念」や「保育方針」、「保育目標」を掲げ、子どもの心身の発達に応じて養護や保育、食育の取組みや、保護者支援や地域行事への参加などを定めた「保育課程」が作成されています。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園は築後 23 年を経て老朽化が進んでいることから改修工事に取り組んでいます。工事に関しては、子どもたちの遊びを規制しないよう、関係者とスケジュールを調整しているほか、工事箇所はパイロン等で立ち入ることがないように注意を払うとともに、保護者にもお知らせしています。施設内においては、扉や棚のコーナーにはクッション材などを使い、けが防止対策を行ったり、乳児室のシンクが、つかまり立ちする子どもに危険との判断で、覆いをかぶせる等対策を行っています。</p>		
A③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>一人ひとりの成長に個人差があることを十分把握し、その子に応じた保育ができるよう指導計画を作成しており、特に、個人差が大きい 0・1・2 歳児に関しては、個別計画を作成しています。トイレは子どもによって取組状況が異なる一つです。トイレトレーニングは保護者との連絡を密にし、保育園で始めたことを伝えたり、家での様子かどうか確認して取り組むなど、子ども一人ひとりに合った無理のない援助を行うよう努めています。</p>		
A④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食事でご飯茶碗が左で、みそ汁碗が右という伝承が薄れています。この伝承のために「茶碗を配置した絵」を用意しました。左右が理解できなくとも、視覚で分かるようになり、楽しみながら身体で覚えていけるようにしています。5 歳児は卒業記念に「カレンダーづくり」に取り組むのが伝統となっています。月ごとの絵を描き、その下にはカレンダーを書き込みます。このカレンダーづくりを通して、数字や曜日、月などに興味を持ち、理解が深まっていきます。</p>		
A⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>外遊びを大切にし、運動や自然体験など季節に応じて体験できることをカリキュラムに取り入れています。散歩ではトンボやザリガニ獲りを行いクラスで飼育もしました。外遊びで</p>		

は異年齢児との交流が生まれ、思いやりの心も育ちます。もちつきや節分など伝統行事を大切に体験も行われています。

職員が場面の様子を見ながら「無理しなくて良い」と声を掛けることにより、取組んでいた子どものやる気を抑えるように感じます。子どもの主体的な思いに対し、どのような声かけが望ましいか検討することが必要ではないかと思われまます。

A⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
----	---	-------

<コメント>

0歳児は言葉でコミュニケーションができないため、保育士との信頼関係による情緒の安定を基盤として、子どもの表情や仕草、クセから、子どもが今どうしたいのかを読み取り対応するよう心がけています。また、家庭との連携が重要であり、送迎時や連絡帳により毎日情報交換しています。特に食事においては離乳食の進み具合を確認し、食べてない物は一度家で試してもらい問題なければ園で提供するなど、家庭と一体となって取組んでいます。

A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
----	---	-------

<コメント>

1・2歳は、探索活動が活発になる時期であるため、子どもの好奇心や遊びへの意欲が養われるよう、「自分でしたい」という意欲を受け止め、見守ると同時に必要に応じて支援することで、できた喜びを感じられるよう配慮しています。花を摘んだ→水に漬けたら色水ができた→ペットボトルにいれるとジュースになった→お店屋さんごっこに広がり、そこからお金や算数、言葉など教育に繋がっていく。このような関りが大切にされています。

A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
----	--	-------

<コメント>

3歳以上児は、集団の中で自分の思いが通じなくなると人にあたることもあり、相手にも気持ちがあることを伝えられるよう保育にあたっています。園内で用いられている子どもの名前は動物などのマークと一緒に記載されています。マークを覚え、文字に気づき、言葉につながるものです。5歳児ではカレンダー用の絵を描いていました。一人の子どもが席を立ち、図鑑を手にして戻っていきました。色々なことが書いてある図鑑は大人気で、自由に手に取って見られるようになっています。

A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
----	---	-------

<コメント>

本園では障害児保育を行っています。現在、障害児の入園はありません。障害児や発達に不安のある子どもに対しては、一人ひとりの発達過程や障がいの状態を把握し、指導計画を作成しています。クラス担任の職員の他に1名、その子に寄り添うことができる職員をクラスに配置することで、安心した生活ができる環境を整備しています。障害児保育に関する研



<p>修会に職員が参加し、保育の質及び専門性の向上に努めています。一方で、保護者に対して発達障害等に関する適切な情報をどのように伝えていくかは、今後の課題となっています。</p>		
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>日中、子ども達は活発に活動するため、朝夕の時間は「動」の活動ではなく「静」の活動を行うように配慮されています。ゴザを敷いてその上で活動できるブロックや積み木を中心に遊んだり、小さい子ども達は保育士の膝の上で絵本を見たりしています。午後6時を過ぎると、おやつが配られ、その後もパズルやトランプ、かるたなどの静かな活動が行われていました。</p>		
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>幼小連絡協議会に参加しており、小学校との交流や連携を図っています。また、文字や数字など小学校での学びに繋がる体験を生活や遊びの中に意図的に取り入れています。就学に向かう時期は子どもも保護者も不安が大きくなることから、不安を受け止めるとともに、小学校との交流事業を活用することで小学校への期待が膨らむよう支援が行われています。</p>		
<p>A-1-(3) 健康管理</p>		
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子どもの健康管理については、保護者の協力のもと「健康記録」を記載いただき予防接種や既往歴などを把握します。日々の保育においては、朝の受入れ時の視診に気を付け、気付いた点があれば保護者に確認するように取組んでいます。日中も子どもの様子を気にかけて、様子を見て体温を測定したりしています。特に0歳、1歳児は午睡時のチェックを含め、体温も測定し記録に残し確認しています。</p>		
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>本園では、毎年2回、健康診断、歯科検診、尿検査を行っています。診断結果については、児童票等に記録するとともに、保護者にお伝えし、必要に応じてかかりつけ医の受診を促すよう心掛けています。</p>		
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>アレルギーに対しては、「保育安全マニュアル」内に「アレルギー対応の流れ」などについて記載されています。食物アレルギーに関しては、「食物アレルギー対応マニュアル」があり、これに基づき、医師の診断のもと、保護者と細かい面談の上、給食・おやつの除去対応を行っています。また、誤食を防止するためトレイ、食器は専用のものを使用し、食札を付け、提供の際は確認を怠らないようにしています。慢性疾患児に関しては、保護者との連絡を密にし、体調に変化が見られた際には、早めの対応を行っています。</p>		

A-1-(4) 食事		
A⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>アグリ活動としてピーマンやサツマイモなどの野菜の栽培・収穫体験を行っています。また田植えや稲刈り体験もを行っています。収穫した野菜は、焼き芋や給食の食材として用いたりして、意欲的に食事を摂ることができています。また、5歳児は、毎朝、調理担当職員からその日に使う食材について学んだり、時には子ども達からのリクエストメニューを取り入れるなど、子ども達が楽しみながら食事を摂る工夫がなされています。</p>		
A⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>給食の献立は市の栄養士が作成しており、市内5園で共通となっています。月ごとに各5園の子どものリクエストに応えるメニューや、誕生会メニュー、季節・歳時記に応じたメニューなどもあります。子どもの給食前に園長及び離乳食担当職員が検食し、安全を確認して提供しています。</p>		

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>家庭との連携にあたっては、朝夕の送迎時のあいさつや連絡帳を大切にしています。また、園内に「発表会」や「もちつき」、「給食」などの活動等の写真を掲示し、園の様子を保護者に伝えられるよう工夫して取り組んでいます。また、今年度は「一日保育士体験」に組み、保護者46人中8人の参加がありました。保護者にお知らせをする場所として、クラスの出入り口部のガラスに「枠」をテープで形どり、お知らせコーナーとして掲示物を貼るようにしました。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者に対しては、朝夕の送迎時の会話や連絡帳をとおして、コミュニケーションを図り、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努め、保護者の気持ちに共感するとともに、子育ての悩みや質問に対応できるよう努めています。保護者から連絡帳により相談があった場合は、返信を記載するだけでなく、直接話して伝えられるよう取り組むとともに、園内の「相談記録」に記載し、共有化に努めています。保護者アンケートでは「子どもの育ち等について保護者の相談に応じてくれますか」の問いに「はい」が92%と大変高い回答率を示しています。</p>		
A⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・b・c ○

<コメント>

市内5園で作成した「保護者支援マニュアル」に「虐待が疑われる子の早期発見」や「虐待の疑い発見のチェックリスト」、「児童虐待対応の流れ」などが記載されています。

日々の保育においては、登園時の視診を重視するとともに、連絡帳を確認したり、家庭の様子をうかがうなど密接に関わり、変化を認識できるよう努めています。また、少しの変化でも職員間、(関係課)保健師との連絡を密にし、情報を共有しています。

### A-3 保育の質の向上

#### A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)

A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・b) c
----	---	--------

<コメント>

「自己評価チェックリスト」を活用し、職員は自己評価を行い、園の平均値が出されており、年度内に再度実施する予定となっており、集計結果をもとに園としての課題や改善方策について検討されることを期待します。また、年間計画では3か月ごとに、毎月の指導計画では月末に担当保育士は自己評価を行い、次の保育実践の参考にしています。